

で、靴を脱ぐことなく、家庭菜園で収穫した野菜をそのまま調理できるという、新しい生活動線が生まれるのもポイント。

単に新しいスタイルを創造するだけでなく、長年にわたって、日本の住宅設計に関わり、そのかたちを学び続けて来たからこそ、その魅力を新たな時代へと提案できる。それも、kinotoの大きな特長のひとつ。お客様の新たな住まいにも、土間=インナーテラスを取り入れてはいかがでしょうか。



COLUMN

「土間」

古き良き空間の、
新しくて楽しい機能

kinotoでは、土間を再評価し、「インナーテラス」として、現代の住宅に取り入れてご提案しています。かつて、土間は家の外と中とをつなぐ中間の場であり、収穫した作物の加工や、道具の手入れ・収納を行う空間でもありました。

これらの機能性を現代の生活に合わせてリデザインしていけば、玄関から自転車やスキー板、ガーデニング用品など、趣味の道具を直接運び込み、メンテナンスや収納ができるスペースになります。また、土間の中にキッチンを設け、中庭とつなぐこと

02
TAKE FREE

LIVE! kinoto

奈良・京都・大阪で家づくりを手がける、
住まいのブランド「kinoto」が、
家と暮らしを巡る“LIVE!”な情報をお届けします。



News

kinotoギャラリー リニューアル！

kinotoを運営するアーキネットが2021年4月で創業30周年を迎えること、また、販売代理店として取り扱うインテリアブランドが拡大したことを受け、お客様をお迎えするギャラリーをリニューアルいたしました。

カール・ハンセン&サンや、ルイスポールセンなどの北欧の家具や照明を中心としたコーディネートの提案をお楽しみいただくことができます。

家づくりのご相談のみならず、インテリア購入のみのお客様も大歓迎です。ラインナップの一部とはなりますが、実物の質感に触れながら、オーダーを承ることができますので、お気軽にお越しください。

ギャラリー訪問予約する →



【取扱ブランド】  CARL HANSEN & SØN
PASSIONATE CRAFTSMANSHIP

louis poulsen

FRITZ HANSEN

ROGOBA KILIM®

アウトドアも、インドアも。 暮らしの喜びを感じられる家



滋賀県内のマンションに暮らしていたY様ご夫婦。「特に不便は感じていなかつた」と話すおふたりが、kinotoで家建ててから6年。どんな家づくりを体験し、そして、どのように暮らしてきたのか……この家を巡る物語をうかがいました。

暮らす楽しみを味わいたかった。

琵琶湖のほとりに位置する住宅街。里山に茂る木々と調和した、豊かな植栽が目を引くこの家で暮らしているのが、Y様ご夫婦です。「いらっしゃい」と、玄関から穏やかな声で出迎えてくれたご主人からお話をうがうございます。まずは、この家を建てる前のことを振り返ります。

「以前住んでいたのは、駅のすぐ傍にあるマンション。通勤も楽でしたし、生活する上で特に不便は感じていなかったんですね。でも、そこで10年ほど暮らして、ふと“ただ住んでいるだけだな”と気づいてしまって。もっと暮らす楽しみを味わいたいと思うようになっていきました」。そんなとき、愛読しているライフスタイル雑誌で気になる家を見ついたといいます。

「自然に囲まれた環境や、木を基調にした丁寧な設え。そして薪ストーブのある暮らし……そんな家を見て、これは素敵だなって。調べてみたら、その建築事務所が関わった住宅ブランドが関西エリアにもあるとわかりました。それがkinotoだったんです」。その後、奈良県内のモデルハウスを見学。「やっぱりいいな」と、併まいに惹かれ、Y様ご夫婦の家づくりがはじまりました。

夫婦や生家の思い出を家づくりに取り入れる。

「妻は温泉が好きなんです。特に長野県にある古民家の温泉旅館がお気に入りです。そういう場所で流れる、ゆったりした時間や空間を、自分たちの家でも再現したいと思ったんです」。そこで、「お気に入りの旅館で過ごすようなひととき」を家づくりのコンセプトに据えることに。設計前のヒアリングでは、旅先で撮影した数々の写真を見せてイメージを伝えたといいます。何回かの丁寧なヒアリングを経て完成したY様邸。1階は土間と和室、夫婦の寝室が。そして2階は、リビングにキッチン、バスなどの生活スペースに。住宅の周囲は、豊かな植栽によって彩られています。また、空間づくりには、ご主人の生家の思い出を取り入れました。

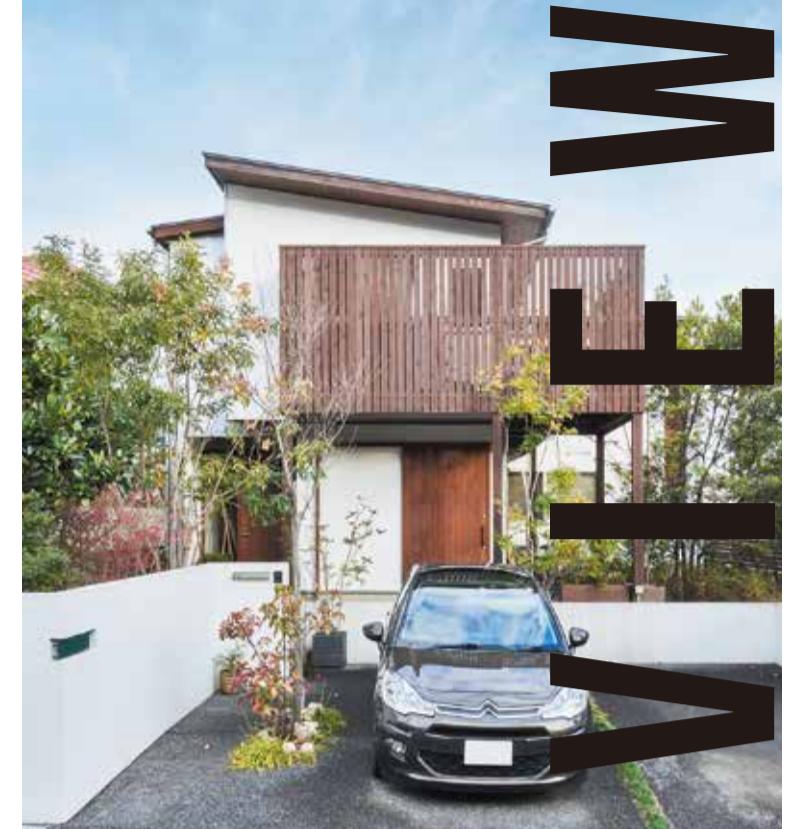
「和室にある桐タンス。これは私の両親から譲り受けたものなんです。このタンスを置ける空間はぜひ用意してほしいというオーダーもしましたね」。たしかに、1階の和室は、立派な桐タンスを置いても、ゆとりのある空間。夫婦や生家の記憶を大切に編み直しながら、丁寧に家づくりを進めていったことが伝わってきます。

ディティールに込めた、自分たちのこだわり。

「初めて家に入ったとき、階段を登って、2階につくと、ぶわっと一気に視界が広がったんです。その光景を見たときは、感動しましたね」と、家を引き渡されたときの感想を話す主人。特に2階のリビングは、ご主人の想いと、kinotoのアイデアがたくさん詰まった空間に仕上がりました。

「この天井にもこだわりがあって。どんなにお金がかかっても、どうしても梁を出したかったんです。あと、kinotoからの提案で、梁の裏側の天井板は細い板を平行に並べるつくりにしてもらいました。特に階段上の天井は、大工さんの工夫で、白味がかかった木材から赤味がかかったもののへ、グラデーションが出るように組んでくれたんですよ」。このリビングの開放感や穏やかな雰囲気は、家を訪れるご友人からも評判なのだと。また、キッチンには、引き戸の食器棚と、カウンタ下のオープン棚を設置。これらの収納にも、思い入れがあります。

「若いときから、私も、妻も、器が好きで。食事のときも、“この器とあの器を並べたらきれいかな”なんて話しているんですよ。休日に2人で出かけるときは大体、県内の信楽焼きを観に行ってますね。時間に余裕があれば、島根や長野など遠方に出かけることも。とにかく家の中にたくさんの器があるので、それらをきれいに置けるスペースも欲しいと伝えてかたちにしました」と、満足そうなご主人。「もう棚がいっぱいになっちゃったから、また食器棚をつくってもらわないといけないな」ともおっしゃっていました。



家が変われば、ライフスタイルが変わる。

「この家に引っ越してきて、外出する機会が増えました」と、語るご主人。大のアウトドア好きで、休日は、土間に置かれたカヌーを取り出して琵琶湖でのライドを楽しんだり、会社の同僚とキャンプに出かけています。

「学生時代はヨット部だったので、当時からよく琵琶湖に通っていました。今はカヌーが趣味になっていますが、頭の中を空にしてオールを漕いでいる時間が至福なんですね。マンション時代は、荷物を用意したらエレベーターに乗って、駐車場に行って……と、いろいろ大変でしたが、土間から直接クルマにカヌーや荷物を積み込めるので出かけるまでのハンドルが下りました。よく身体を動かすようになったおかげで、kinotoの担当者の

方と久しぶりに会ったときには『痩せましたね』なんて言われたこともありますね」と笑うご主人。その視線の先には、特注の木製サッシの窓によって美しく切り取られた琵琶湖の眺望が。さらに、その反対側の窓からは、庭の植栽越しに里山の木々の紅葉が見えました。

「窓の配置も、風景が楽しめるように設計いただきました。琵琶湖側の窓は、隣の家の屋根が眺望に入らないように角度を緻密に計算して設計してくれたんです。反対側の窓からは、紅葉はもちろん、冬になれば雪化粧した里山の風景も見ることができます。日々の暮らしの中で目に映る風景は、引っ越ししてから随分変わりましたね」。また、庭の植栽もご主人のこだわりをしっかり反映。

「木々とか、庭とか、自然の風景が好きで。本当は雑木林の中に家を建てようと考えていたくらい。ちょうどいい土地もなかったし、現実的には断念しましたけどね」とのこと。ご主人自ら庭師と一緒にショップを見て回り、木を選んだといいます。



少年のような心で日々を楽しむ。

関西圏の中でもY様の住む滋賀県は、冬は冷え込み、雪も積もります。そんなときに活躍しているのが薪ストーブです。

「最初に家づくりを考えたときから、薪ストーブに憧れていました。ずっと念願だったんです。薪も自分たちで調達しているんですよ。太い薪を仕入れたら、斧でちょうどいい細さに割って、火をくべるときは細い薪から太い薪へ、徐々に炎を移していく……火を起すのも技術が必要なんですけど、使うたびに少しづつ上達していくのも面白いんです。なぜか男の子って火を見るのが好きじゃないですか。炎が揺らいでいる姿って、不思議とずっと見ていられるんですよね」と、少年のように楽しそうに語るご主人。その表情が、この家を建ててから過ごしてきた時間の豊かさを、色濃く物語っているようでした。

